

KSN 通信 VOL.133

こんにちは。いつも弊社をご利用いただき、誠にありがとうございます。

赤みを帯びて見える 6 月の満月のことをストロベリームーンと呼ぶことがありますが、ネイティブアメリカンがその赤い光を例えて名付けたことからその名称が広まったそうです。アメリカでは 6 月が苺の収穫期ということに加えて、月が地平線に近い位置を移動するため赤みがかって見えることから、「苺が熟す頃の満月＝ストロベリームーン」と呼ばれるようになったと言われています。



■ KSN からのお知らせ

■ 第 16 回定時株主総会を開催いたしました

令和元年 5 月 27 日（月）午後 1 時より、弊社にて、第 16 回定時株主総会を開催いたしました。すべての決議事項に関しまして、原案通り承認可決されました。

今後も国内外を問わず、多種多様なニーズに沿った事業展開を推進して参りたいと考えております。お客様にご満足いただけるよう、社員一同、鋭意努力いたす所存でございますので、何とぞ一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



■ ヘルスケアだより

■ 日傘の活用推進について～夏の熱ストレスに気をつけて～

環境省では、熱中症発症者数の増加が見込まれる初夏から夏季を中心に、夏の熱ストレスを一人ひとりの工夫で低減できる暑さ対策として、暑さ指数（WBGT）の低減効果が比較的高い「日傘」の活用が推進されています。

環境省により、人工気象室（気温 30℃、湿度 50%、日射量 1.2kW/m²、風速 0.5m/s）で 15 分間の歩行運動を 2 回、男性 6 名により帽子のみをかぶった場合と日射を 99%以上カットする日傘を使った場合との比較が行われ、その結果、汗の量が約 17%減ることが分かりました。また、平成 23 年度に行われたヒートアイランド現象に対する適応策の効果調査でも、上着を着用して歩行するケースに比べ、上着を着用しないクールビズを実施するケースの熱ストレスは約 11%低減し、さらに日傘を併用すると合計約 20%低減できること、街路樹がないケースで日傘を差す効果は、10m間隔で街路樹を形成する効果に匹敵すること等、熱ストレスの観点からは男女問わず日傘を活用することが望ましいことが判明しています。

今年もすでに、5 月末の時点で記録的な猛暑日が観測されています。できる範囲での暑さ対策をしっかりと取って、熱中症を防ぐよう心がけましょう。

発行元：株式会社関西再資源ネットワーク
〒592-8331
大阪府堺市西区築港新町 4 丁 2 番 5

TEL：072-320-9001（代表）
FAX：072-320-9004